

— アジェンダ 1 がんの初発を先制する —

MEMO —

— アクチベーション科学を医療の現場と結ぶ —



田中医療創造研究所
代表

田中 紘一

Koichi Tanaka

座長 萬 憲彰

日本医療研究開発機構（AMED）はエビデンスに基づいたヘルスケアサービスを促進するために「 予防・健康づくりの社会実装に向けた研究開発基盤整備事業」を令和4年から取り組んでいる。
また、令和7年の再生医療学会は、今後の再生医療の方針として「検証型医療」と「非検証型医療」に分けると YOKOHAMA 宣言で提案している。

このため、この分野で新しい医療開発に取り組むには、これまでの臨床試験とは違う視点から評価と結果分析が要求される。すなわち患者の行動変容をどう捉え、客観的指標を可視化して解析する方法が求められる。特に大病院と違いクリニックでは対象となる患者数が限られるため、いくつかのクリニックが共同で医療開発を行うことが必須である。このためにはオンライン診療やウェアラブルデバイス（PHRH 等）の活用できるかも課題となる。本学会でテーマを決めて実践できればと期待している。

エクソソームの臨床応用も盛んに実践されている。エクソソームは細胞培養液中に数多く存在してエクソソームの中に含まれる分子がさまざまな細胞を活性化したり細胞間情報伝達に関わって機能を持っていることがわかり、臨床開発に取り組まれている。さらに脂肪肝細胞を活用する再生医療も盛んに実践されている。これらの新しい領域の医療を進展するには、患者の行動変容の評価を組み込んだ統計手法が求められる。

略 歴

【学歴】

昭和35年(1960年) 3月 大分県立大分上野丘高校卒業
昭和41年(1966年) 3月24日 京都大学医学部医学科卒業

【職歴】

昭和41年 4月 1日 京都大学医学部附属病院にて実地修練
平成7年 4月 1日 京都大学大学院医学研究科 (外科学助教授)
平成7年 12月 1日 京都大学大学院医学研究科 (移植免疫医学講座教授)
平成13年 4月 1日 京都大学医学部附属病院長 (平成17年3月まで)
平成17年 4月 1日 財団法人 先端医療振興財団 副理事長
先端医療センター長 (平成22年3月まで)
平成25年 9月 シンガポール総合病院シニア・コンサルタント
移植・肝胆膵外科 平成27年8月まで)
平成28年 4月 11日 平成28年4月11日 青島大学 (中国) 名誉教授

所属団体等

日本移植学会 理事長 2003年10月29日～2007年11月24日
日本外科学会 理事 1997年4月10日～2003年6月3日
国際移植学会 理事 2006年～2010年

受賞歴

平成12年度 上原賞受賞
平成13年度 武田医学賞受賞、大分合同新聞特別賞受賞
平成14年度 慶応医学賞受賞、日本医師会医学賞受賞
平成16年度 (2004年) Transplant Asia (Lifetime Achievement Award in 2004)
平成23年度 アカデミア賞受賞
平成25年度 MAHARSHI SUSHRUTA GNYANPEETH SANMAAN 受賞
(DR H.L.TRIVEDI INSTITUTE OF TRANSPLANTATION SCIENCES,INDIA)
平成26年度 日本学士院賞受賞
令和元年 ヨーロッパ移植学会名誉会員賞

Large empty rectangular area for notes, containing horizontal lines for writing.

【メモ欄】